公民館報 こすど

発行所 小須戸町公民館
新潟縣中蒲原郡小須戸町
編集発行印刷人 矢部藤三郎

今年こそは最良の年に "よいこと" "わるいこと"

普通人間はそれ〜の立場において、自分が最も良いと思ったことを平氣でやっている。これは果して他のものに対しても ほんとうに良いことなのであろうか？…

中には又自分なんぞはなっていないのだから、他の人のいうことをそのまゝうけ入れてやって行けば間違いはないというような消極的な人もある。この考え方も果していゝものだろうか？…

何はともあれ、本町にもいろ〜な人が住んで、その顔かたちの異ると同様に、皆それ〜の考え方で生活していることは事實なのだ。

これを一つの方向に一人や二人のえらい人が引っ張って行こうとしても、それは中々むづかしい事で無理な話だ。生活改善や結婚改善の問題にしても、また文化活動の面においても、ほんとうは自分自分の切實な問題として取り上げるようにならなければ、ほんとうの實はあがらない。といって〃百年河清を待つ〃ではいつになったら氣持よく住める自分達の町ができることか？…

われ〜の町は、われわれの手で作り上げるのでなければ、他の人たちが助け育ててくれることは絶対にないのだ。

もっとみんなで町の問題を自分の問題として、ほんとうにつきつめて考えて見ようではないか。町長以下、町の片すみの一人〜にいたるまで、そして今年からは全町を擧げて町の動きに關心を持って、わかるところまでとっくりと話し合ってお互が諒承できるまで行こうではないか…。

良い事、悪い事も結局はお互がわかり合えば、たとえ悪いことがあっても皆なで悪いことをなくするように力を合せて行くのだ。町のいろ〜の良い悪いもせんじつめれば自分が良いか、悪いかできまるのだ。

今年こそは、最良の年を迎えるように全町一丸となって、明るい町つくりに精進しようではないか

青年団・婦人會・PTA 指導者講習會

十二月十五、六両日にわたり新津市第一小學校で開催された中蒲原郡社會教育団体指導者講習會は増井縣社會教育主事をはじめ、多數の指導官臨席のもと、郡内各町村の指導者二百余名が參加し、縣保優良団体から体驗発表大井一星氏の講演があり各分科會の研究討議を織りまぜて、大成功裡に終了した。

当町からは海津副館長、間野主事外青年団、婦人會、PTAの各関係代表十四名が出席され、特に小須戸町連合婦人会からは保科フサさんが本町婦人会の体驗を堂々と発表され、"深い感銘を與えた。

倘開會劈頭中村晴峰氏外個人一、団体三の文化功勞者表彰式が擧行され、万場の祝福を浴びた。

結婚式の公営
四千圓で挙式

昨年結婚改善事項が決定されて以來、めざましい活動を続け、幾多の實績をあげて來た小須戸町結婚改善委員會では、今回更に各方面よりの要望により、結婚式の公営機関を設置し希望により一切万事委員會でお世話することになった。

結婚は人一代の盛儀であるから、簡素の中にも最も厳粛に擧式するようにと次の事項を決定し、心安く皆さんの御利用を願っている。

結婚式公営事項

(1) 婚禮の場所 吉春 中久

(2) 費用（客十人）

計	四、〇〇〇円
祝宴費	二、五〇〇円
式場費	五〇〇円
雑費	三〇〇円
記念寫眞	七〇〇円

(3) 服裝 あり合せのものを使用 希望により花嫁貸衣裳は五〇〇円、化粧着付カツラ、または結髪付七〇〇円で斡旋する。

(4) 擧式の時間 午前の部 十時〜一時 午後の部 一時〜四時

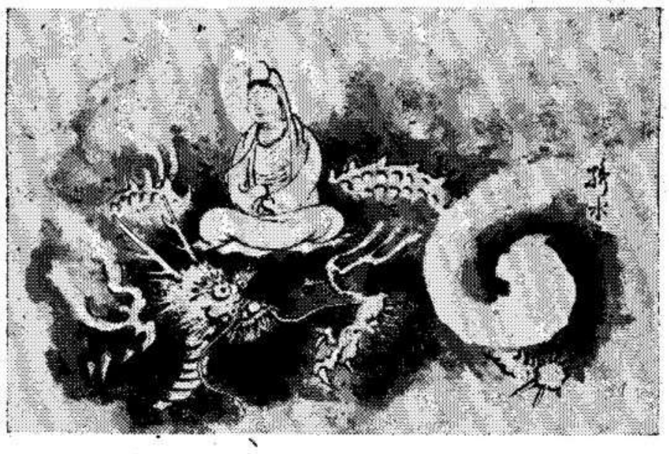
(5) 擧式 一、誓詞 二、契りの盃 三、記念撮影

(6) 披露の宴 一着席 二媒酌人挨拶 三親の挨拶 四參會者紹介 五乾盃 六祝宴

(7) 申込所 公民館内結婚改善委員会へ 又は最寄の結婚改善委員に。

龍頭観世音画

福永茂明筆



本年は獨立日本の態勢を整え、いよ〜文化國家の再建の年であり、國民も今まで荒れていた心も漸次落ちついて參りましたが、更に進んで觀世音の心のように大慈悲心を持ち、お互いに助け合い、円満なる社会として平和境を實現すべきであります。人各々の心の修養によって、明るい社會をつくり上げることが出來ると思います。年頭に当り、本年の計画を定め、生活の向上を計られんことをお祈り致します。

トラホーム治療に
横水校の實績
家庭の協力を乞う

トラホーム兒童の多い横水校では、一人の羅患者もなくしようと、校醫PTAの協力を得て完全治癒に涙ぐましい努力を続け、特に新特効薬テラマイシン療法を行い

検診別	羅患率
四月	二五%
九月	二一%
十一月	一四、四%

以上の實績をあげ、完全驅逐を目ざしているがこの際各家庭にお願いしたいことは、兒童が全治しても、また罹る率が多い。これは家庭内の人人に患者があっても全々治療しないため、手拭や洗面器等からまた〜感染することが大きな原因で、學校では兒童に万全な治療を施すが、各家庭でもこの点特に留意され、兒童保健に格別の御協力をお願いする。

輝く表彰二題

統計功勞 小林孝治氏
社會福祉 松尾利恵さん

小林孝治氏（矢代田）中蒲原郡統計研究協議会及び新潟縣農林統計協会に多年盡力され、その功が報いられて今回各会長から表彰並に感謝状が授與された。

松尾利恵さん（小須戸）日赤小須戸町奉仕團長郡並に縣赤十字奉仕団役員として多年社会福祉事業に盡力され、今回表彰の榮譽に浴したものである。

二十六年度 工業調査に協力を

國の基礎的產業の中心をなしている製造工業の民間事業所全般について、十二月三十一日現在で一月中に調査が實現されます。該当については連絡がありますから、御協力をお願い致します。

成人式と 記念弁論大會

一月十五日に擧行される成人式は、町当局、公民館、連合青年團合同で厳かな式典を擧げ、記念撮影、弁論大會、体育行事等具体的な計画を進めているが、本年の該当者は男一八〇名、女一〇五名計二八五名である。当日は全町一齊に國旗を掲げて、成人としての新しい門出をする若人を心から祝福しよう。

公民館郡研究会 10日小須戸町で

郡公民館協議會主催の重要行事である主務者研究協議會は別記により一月十日当館で開催される予定。

實態発表 會ノ木公民館、橋田公民館、庄瀬公民館、小須戸公民館

○研究協議題
㈠他團体との連絡融和について
㈡予算編成並びに事務處理について

見よ‼台上の勇姿
白旗先生

（RM生）

七月××日 K小學校の体操研究會である。

今日は特に縣の体育主事ならびに縣視學殿が臨席指導されるというので郡内各小學校の体育主任をはじめ、一般參観の教員が五十余名參集した。

晴の實地授業をやるのが、夙に体操研究家として令名ある当校のT首席訓導である。

午前九時…振鈴と共に私たちはどや〜と屋外体操場へ流れ出た。

授業を受ける尋常六年の男兒童は、ユニホーム姿を眞夏の太陽に輝かしながら、見る目も見事に整列をしていた。

T訓導も眞新しい純白なズボンをはいて、愛嬌ある鼻下のチョビ髭に、それとなしに得意の色が浮んで見える。

やがて、校長の先導で縣視學、体育主事殿がいとも重々しく臨席された。

「氣をつけッ、敬禮ッ」

T訓導の号令一下、全校しゆく然と形を正して敬禮をする。

体操は、型の如く整頓、行進、駈足等から始められた。さすがはT訓導の一糸乱れざる巧みな指導振りである。感嘆の聲がそこゝに洩れ聞えた。

体育主事殿はすこぶる厳粛な面持ちで、時々移動しながら熱心にみて居られる。

体操はだん〜佳境に入って全兒童開列の上、いよ〜主運動とはなった。T訓導は、跣足で正面に据えられた高い台の上へあがった。

げに颯爽たるその姿！

兒童は勿論、參加者一同も緊張の極に達した。

下肢の運動が始められた

「手を腰に取れ——取れッ。踵をあげ、半ば膝を曲げ——曲げッ。延ばせッ。踵を下せッ。」その運動を呼稱をつけて、用—意ッ、始めッ」

「一、二、三、四、五、六、七八」

この運動が二回ほど繰返されるとT訓導は突然

「止めーッ」

と云って

「膝を半ば曲げた際に腰が前方に曲るものがある。それはいかん、自分を注目ッ」

台上に右向けをしたT訓導は、いとも正確なる模範を示した。

この時である。

「ピリッ」

と云う異様な音が台の上に聞えた。私達はハッとした。T訓導もハッとしたらしい。と、誰かゞプッと吹き出した。それにつられて、附近の五六人がふき出す。

と同時に、謹厳なる縣視學、体育主事、校長殿までがワーッと腹をかゝえて笑い出してしまった。

見よ！

台上のT訓導を……

見事に裂けた新しいズボンのお尻からダラリと下った、三十糎ばかりの源氏の白旗（越中褌）火のような眞赤な顔をして、それを元の裂け目から、中へ押込んでいる彼のすがた。

今までの緊張はどこへやら、子供たちは地にころげる。私達は涙が拭い切れない……。

とう〜その時間は目茶〜に終ってしまった。

否、その時間ばかりではない。その日一日中、思い出しては笑い、思い出しては笑いで、結局、研究會が変なものに終ってしまった。

否、々。十有余年を過ぎた今日でも尚、当時のあの白旗を思い出すと、私は「ウフ、、」と一人で笑いがこみ上げて來てしようがない。

T訓導は以來、「K校の白旗訓導」とアダ名をいたゞいてしまったが—健在なりや、否や。—

謹賀新年

（順不同）

小須戸町役場
町長 長谷川鉄太郎
助役 岡田六太郎
收入役 轡田奈賀人
吏員一同

小須戸町議會
議長 蓑ノ和清之十
副議長 五十嵐重雄
保科清作　小林孝治
田中重三　吉田正一
齋藤傳松　齋藤加助
新井田政吉　長澤熊太郎
井上寛治　五十嵐若吉
海津政吉　新井田義太郎
小島正春　板井清之亟
武澤秀三郎　中村信作
丸山清三郎　中澤吉三郎
五十嵐兵治　横山信榮
白井門藏　榮森作司
本間巻二
（順不同）

縣會議員
村山吉五郎

公平委員会
委員長 田中四郎
海津良助
朝日義惇

小須戸郵便局
局長 五十嵐德次
主幹 畑中喜八
主事 三浦茂
局員一同

公安委員會
委員長 宮崎純能
關口清七
保科嚴夫

小須戸町警察署
署長 西山信一郎
署員一同

小須戸町商工會
會長 海津良助
副會長 田中重三
〃 吉田久衛
會員一同

農業協同組合
組合長 丸山清三郎
副組合長 坂井隆治
役員一同

連合青年團
團長 田中重三
役員團員一同

連合婦人會
會長 森内幸子
役員會員一同

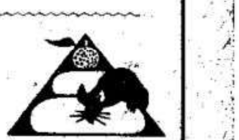
矢代田驛長 中澤正紀

中学校長 旭了雄
小須戸校長 間清太郎
矢代田校長 小川勝比古
新保校長 田中耕作
横水校長 田中高一郎
定校主任 奥畑寛

公民館

我が世の春

辰の身の上



明けましておめでとうございます

吾輩は〃我が世の春〃を歐歌する本年の当り年である辰であります。辰と申しましてはおわかりにくい事でございましょうが、ほれ床の間の掛軸や屏風の絵においなじみの[illegible]のことであります。[illegible]に見られる通り、背に八十一枚の鱗と、四本の足に五本の指があり、頭には二本の太い角も生やし、面長で耳もあり、口には長い二本の鬚を持って黒雲に乗って活動するあの動物であります。だが吾輩はこの世に實在しないもので、大昔支那の神話から生れたと傳えられる想像上の動物でありますから、少しもこわいことはありませんが、〃龍は万物の長なり〃などといわれております。

さて吾輩の兄弟分、子丑寅などが毎度十二支合せに子供さん達と一諸に遊ばせて貰っております。十二支はどうして動物の名でよぶようになったのでしょうか、これは動物にたとえて憶えやすいように支那でこしらえたものだといわれ、また子寅辰午申戌は陰陽の陽を意味しております。今年は壬辰（みずのえたつ）で、この辰を昔の時間にあてはめると午前八時となり方角にあてはめると大体東南にあたります。この時刻や方向、年令などを色々に組合せてうらないや多くの迷信が生れております。（佐藤隆禪）

縣下競書大會に
輝く入賞

去月廿一日、縣下學徒競書大会が一齊に行われた小須戸小學校は白根会場に、矢代田小學校は新津會場へ、多數參加して精魂を打込んで揮毫した結果、小學校部に

金賞　森内伸生　小五
銀賞　五十嵐浩子　小四
〃　佐藤　勉　矢五
〃　淺見幸子　小五
銅賞　眞柄京子　矢五
〃　保科新吾　矢五
〃　本多舜馬　矢六

この外、小須戸校三二名、矢代田校一九名の入選者を出し、それぞれ賞狀が授與され輝かしい優秀な成績をおさめた。

元旦の計に
森林伐採計画も

今回森林法の改正により施業計画に基きそれぞれ實施する事になります。

◎廿七年四月より明年三月までの一年間森林伐採計画の申請は一月末日まで届出を要します

△指定の禁令に達しているものに限り、伐採の六十日前に届出を必要とします

右の手続がないと伐採できません。

◎自家用材指定申請は出来るだけ早く手続して下さい。

用材林は　三反迄
薪炭材は　四反迄
混合の場合五反迄

右の指定を受けた場合は何時にても勝手に伐採ができます。

廿七年度の伐採計画、造林計画も届出用紙も役場に用意してあります。

詳細のことは役場係員に御相談して下さい。

新春を迎えて
中村晴峰

立春　佐保姫の天の戸あけて春やたつ
　　しののめこしの初日の出かな

鶯吟　うぐいすの谷の戸開けて春を告ぐ
　　梁のゆかしく梅の花笠

郷土春　小須戸橋たちて眺むる春野原
　　かりのながれにやまやまの景

文芸入選

年頭感
間野良遊

六人の子どもを生んで育てきし
　妻のやつれをしみじみと見る
つれだちて温泉めぐり京めぐり
　する日もあらん妻老ゆるなかれ

佛印・憶出
加藤國一郎

君を待つ人ありときくサイゴンの
　ブーゲンビリア何を語らん
大いなり海は大いなりこの朝も
　波どうどうと岸を打つなり

和歌（順不同）

たらちねの御親は子等に雜煮餅
　年と同じの數を食べよと
左義長の炎ほてりに子供達
　頰を赤めて友と呼び合う
矢部田案子

杉叢に雲間の星のあふれおる
　背戸に若水汲む音のして
さざら波寄する中洲の初鴉
　一羽來て二羽たち去りにけり
高野一雄

看護婦の白衣も帽も新らしく
　元旦の朝の廊下をゆくも
柿なます柚を散らして七草の
　餅雜炊に添えてまいらす
加藤梅子

狂歌
高野峰雄

お年玉はじめてくれたお姉さん
　やたらに用事を言いつけるなり

俳句（順不同）

餅を喰う静かなる日の黄水仙
朝日に餅をつく汽關車だけが走る
内山越樓

金扇を発止と開き舞初めし
往ぎ廻す赤きインクや事務始
加藤山葵

羽子板を抱きて父に抱かるる
杵の音餅になりつつ破裂する
矢部田案子

初鶏の中心に公民館はしかと
初明り護摩堂嵐と鐘を解く
高野一雄

娘も交ぢりカルタに一夜明しけり
初明り松の匂いを知らざりき
丸山一夫

カルタとり踊も午前一時うつ
餅をやく遠く夜汽車の寒々と
森田まつし

去年の幸今年もつづけおらが春
三十の年聞きいささか思う春
矢部竹蛮

コントは入選作品がなかつたが、佳作を二月号から逐次発表する。

尚薄謝は十五六日頃贈呈の予定です。終りに力作を多数応募された事を衷心より感謝致します。（弘報部編集係）

小須戸風土記
《丸木舟と往古の蒲原》

小合村川根で考古資料として貴重な丸木舟が発見されて学界に話題を投じています。専門家の鑑定では、おそらく平安朝の今から千二三百年前のものだということです。舟の権威者西村眞次博士の記録にもこれほど完全な形で発掘された丸木舟は全國でも珍しく、新潟縣としては始めてです。すでに舟は神代からあり、古事記には色々の形の船のあることが記録されています。浮寶、鰐形、かまみ形、播磨速鳥船いずれも丸木舟の類であることが記されています。川根の舟はかつぶし形と竹割形が混合したような形で、田舟の一種でありましよう。殊に興味のあることは、この舟の発見された附近に彌生式土器と祝部式土器の破片が出ていることです。瀧谷山麓に祝部工器製造の遺跡が七八十個所もありますが、其の土器と同一のもので最も新しいと思われるので、六七百年を経ております。舟の年代を断定する事はできないが、土器の年代から推定して、今少し舟の年代が新しいのではないかと思われる点もあります。交通不便の時代においては、中央文化と越後の文化は相当な差があると考えなければならないからです。中央においては、すでに舊式であり、新形が出來ているにもかかわらず、一方地方には舊形に少しも進歩を見せず、習慣としてとりのこされている文化もあるからです。文化元年出版の大日本道中行程細見記に「出羽國秋田郡荷上場より、小繋に至る一里の間は陸路なし。野代川の川上を舟にて往來す。大木をくりたる舟にて一人宛に乗る也」と記してあります。

し、北海道では今尚丸木船を使用しているものもあるとのことですが、此の種の舟は想像ではあるが、越後でも二三百年前まで使用していたものではないでしょうか。然しこれは専門家の研究に俟つとして、丸木舟や土器の発見により中蒲原地方の内でも、信濃川沿岸一帯には千二三百年前より聚落のあった事實が推考されます。ところが古來より「越後古代圖」というものがあって、それによると中蒲原地帯は入海の狀態を示しており、小須戸、小合附近の地名はほとんどなく、一般には昔は海だったと信じられているのです。その圖面は二種あります。一圖は作者不明で、康平三年（今より約八百七十餘年前）にできて康平圖といわれています。次の一圖は寛治三年（今より約八百四十餘年前）のもので、特に此の圖面は寫図され一般に流布されています。作者は源頼綱の臣三郎兵衛という人で、此の原圖は越後國邑誌にあったといわれています。兩図の製作年代の差は約三十餘年で地名の相違は多少ありますが、いづれも中蒲原地帯が海濤であったことが示されています。

こうして海であったものが、どうして陸になったかというと、寛治六年の年越後に大地震が起り、地形の大変動があつて陸地になつたというのです。處がこの事實を裏書するような文献が大部のこっています。その文献の内二三を拾記してみますと、紫雲寺新田由來記に「海藏寺住職快秀記して曰く七十三堀川院寛治六年戊辰（壬申の誤）大津波、地震、蒲原、岩船陸地になる」といい、又寛治図の後の記入に曰く「寛治六壬申年九月、海嘯にて米浦より西北の方海となる。堀川天皇御宇後三年役後三年なり。次に寛治六年壬申九月寺泊の下より角田、古潟、砂山、榎本島等大波で折崩れとなる」と記してあります。それなら本当に当時、地震や津波があったであろうか。文献として最も信頼の置ける大日本地震史料を見ますと「寛治三年七月十五日佐渡地震角田沖陥没し津波あり」と記錄が遺っているのです。これによって寛治年代には實際に津波や地震がおこり、地形に大変動を生じたことがうなづかれます。一部の郷土研究家は以上の古図及び文献をよりどころとして中蒲原は往昔は海であったと説いているのです。從って一般の人達には海であったという觀念が離れないのは、無理もないことです。然し研究的立場になってこれらの古代図なり文献を調査してみますと色々疑問があるのです。第一作者の源頼綱の臣三郎兵衛なるものが、なんの理由で寛治図を造ったのであろうか。又此の図面の出典であるべき越後國邑誌なるものが實際にあったものでしょうか。今から約百二十年ばかり前に、彌彦の高橋某なる神官が、同じく此の疑問を持って調査していますが不明です。一説では高田の或る寺院にあつたが、燒けてなくなつたという説もあります。恐らく郷土研究家で越後國邑誌を知っているという人は一人もいないでしよう。殊に兩図とも海岸線の高低から計って当然あるべき地名が記されてなかったり当時ないと思われる地名が記入してあったり、又歴史上疑いなきこと二三百年以來開発された地名が記されている点から、どう見ても後世の人の想像図であり、偽造したものとしか受けとれないのです。すでに一部の郷土學者は寺泊の越後名寄の著者の丸山元純の子が創作した僞造古図であると断定している人もあります。これは早計な態度としても測量術の幼稚の時代にあって、此の古代図が製作されたものとすれば、此の図面が完全のものでないということが推側されるのです。

事實の眞僞は別ですが、神武帝の時代に沼澤の狀態を記錄した古文書があります。天香山命が越に下って彌彦山に登って東方を望みたまうて曰く、自此往前者水沼之蒲原也といわれています。この記錄はなにを物語っておりましょうか。康平寛治以前より、中蒲原地帯は海の底にあったものでなかったという事實です。自分は恐らく寛治前より信濃川沿岸地帯には小部落があって、我々の祖先が生活を営んでいたものと信じられるのです。特に小須戸町横川濱の開発は、信濃川沿岸にあって大同元年開発された古村で、古來より濱郷といわれていますが、最近発見された永錄年中の記錄には、横河間村と記されている事實から、信濃川にはさまれている村という意味が明白にされてきています。又此の村と鎌倉新田の中間の田の中より先住民の土器の破片や木製品の発掘されている点や、今回川根附近に丸木舟、土器等の発掘により一般に信じられたような海ではなく數千年前より蒲原の沼澤地帯には人類が生活していた事實が証明されてきました。然し古津、新津等の地名から蒲原は海では絶対なかったと斷言し、海であったことを否定できないが、大鹿村出身の吉田東吾博士の大古海灣説に賛同致します。恐らく蒲原が海であった時代は、數万年前のことでしょう。

二六・一二・二〇
（柏大治）

美術謄寫印刷
がり版と侮蔑的代名詞で呼ばれて來た謄寫印刷に血を通わせて、その万能と、迅速さと生々しさをもつて人の心に訴えたい。
魚声工房
高橋喜代治

幻灯會

◎一月のプログラム
(1)宮本武藏　空の巻（一、二）
(2)三つのたからもの（マンガ）
(3)動物の冬の生活
(4)雪やこんこ
(5)世界百不思議

◎巡回予定日と会場

新保分館
一日　練習日
二日　青年會場
三日　小學校
四日　龍玄（お宮）

矢代田分館
五日　練習日
六日　金山
七日　高ケ澤
八日　公會堂
九日　天ケ澤
十日　鎌倉

横水分館
十一日　練習日
十二日　水田
十三日　小向
十四日　横川

小須戸分館
十五日から月末まで

御寄贈御禮

巡回幻灯會に御協賛頂いて今回特に下記の御寄贈がありました。深く御禮申し上げます。
○金八百七拾六円　神明町　常會
○レコード二四枚　三番町　佐藤勇氏

明けましておめでとうございます

大切なお金で上手な買物
安心して買える信用の店
雨具ゴム靴の
田中雨具店
三番町　電七

藥
親切な相談
買いよい店
ワク井
五番町

ナショナル電氣器具
食料品
濱屋
二番町
電一二

鳥豚
鳥權
上田町
電五三

一番町
吉田寫眞館
電三九

肉
牛豚
たまき
神明町
電二

良い自転車
よいタイヤ
坂井輪店
新保
電一七〇

紙
文具
パイロット万年筆
茶
きむら
四番町
電四五

正しい計量明るい生活
理化器械
度量衡器
計量器具
マルコ
小島正春
渡場町　電一六三

醫療器・化粧品・安い店
藤井藥店
二番町郵便局前　電二〇五

諸機械修理
能登鉄工所
ウデコキ
電一四

矢部歯科醫院
助産婦　矢部スズ
横町　電一四一

玉庭印刷所
電二九

昭栄堂印刷所
電一七

楽しいお正月の贈物は是非学校圖書館・学生の店　須藤書店へ！　電六一